

上林暁生誕120年を記念しての展覧会。

本展では、高知出身の私小説作家上林暁の人と文学を中心に紹介します。

また、作中「一人称」を用いながらも私小説に対して、上林とは違った見解を持つ大江健三郎の文学にも目を向け、その魅力を検証します。

さらには、森鷗外、志賀直哉、川端康成、太宰治、田中英光、安岡章太郎といった著名な作家の作品や今年2月に亡くなった私小説作家西村賢太の作品を通して、私小説の変遷とその魅力を紹介します。

〔上林暁プロフィール〕

上林暁は、本名徳廣巖城。筆名は、熊本五高時代に下宿していた熊本市上林町に由来しつけられた。上林は「改造」の記者を経て執筆活動に専念。昭和7(1932)年には、「薔薇盜人」が川端康成に認められ、翌年刊行。昭和13(1938)年「安住の家」で私小説の道を開き、妻繁子の発病から死に至る日々を描いた「聖ヨハネ病院にて」ほか、病妻ものといわれる作品で文壇に地歩を築いた。昭和33(1958)年、『春の坂』刊。翌年には、芸術選奨文部大臣賞を受賞している。

昭和37(1962)年秋、2度目の脳溢血で倒れ右手、足、口が不自由になるが、翌年、妹睦子の協力で口述筆記による「白い屋形船」を発表。この作品で、昭和39(1964)年度の読売文学賞を受賞している。

昭和51(1976)年には、唯一の句集『木の葉髪』を刊行。昭和55(1980)年8月28日死去。当館は、左手で書いた「芥川龍之介の思ひ出」を所蔵している。

— 関連行事 —

☆記念講演会

「私小説の生き方 上林暁に寄せて」

- 日 時／令和4(2022)年12月18日(日)
午後2時～3時30分
- 講 師／富岡幸一郎 氏(文芸評論家)
- 場 所／高知県立文学館1Fホール
- 参加料／要当日観覧券
- 申 込／電話または文学館受付にて事前申し込み
(定員50名)

☆朗読の会

「生誕120年 上林暁」私小説を読む

- 日 時／令和4(2022)年12月17日(土)午後2時～午後4時
- 出 演／文学館カルチャーサポーター
- 場 所／高知県立文学館1Fホール
- 参加料／無料
- 申 込／不要(当日、直接会場までお越しください)

【展示構成】

I.私小説作家・上林暁

- ☆生いたちと文学への目ざめ
- ☆東大時代
- ☆改造社時代と挫折
- ☆作家への道(再度の上京)
- ☆戦時下における妻の発病
- ☆「病妻もの」の誕生
- ☆「聖ヨハネ病院にて」の映画化—映画「あやに愛しき」
- ☆暁、ふるさとを書く
- ☆脳溢血の再発(白い屋形船と闘病生活)と死

II.私小説の変遷を辿る

III.大江健三郎の文学

IV.私小説作家・西村賢太の文学



☆クイズイベント クイズを通して、上林暁やその他の作家を知ろう。

- 日 時／令和4(2022)年12月11日(日)、
令和5(2023)年1月8日(日)、9日(月・祝)
午前10時～午後4時
- 参加料／要当日観覧券

☆新春ロビーコンサート

「作家が愛した音楽」

- 日 時／令和5(2023)年1月4日(水)午後2時～
- 演 奏／NPO法人こうち音の文化振興会会員
- 場 所／高知県立文学館2階ロビー
- 参加料／要当日観覧券

☆展示解説

展覧会担当者による展示解説

- 日 時／毎週土曜日 午後1時30分～(30分程度)
- 場 所／高知県立文学館2階企画展示室
- 参加料／要当日観覧券
- 申 込／不要(当日、直接会場までお越しください)